

勝山・奥越の医療を守る



奥越二次医療圏は 見直し対象圏域

国の指針では、人口規模が20万未満で、流入患者割合が20%未満、流出患者割合が20%以上である二次医療圏は、設定の見直しを検討することとされています。

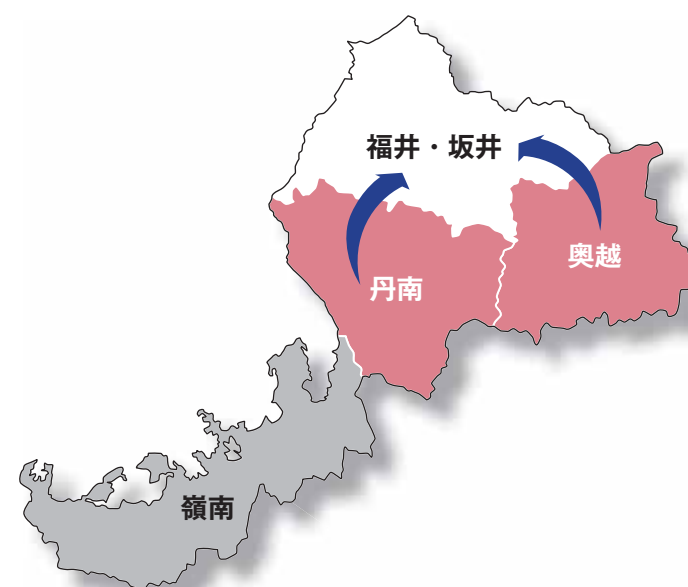
県内では、奥越・丹南圏域が見直しの対象とされています。

二次医療圏は、平成30年3月末までに策定される「第7次福井県医療計画」に位置づけられます。

医療圏とは

医療圏は、医療法により初期の診断・治療を担う一次医療圏、一般的な入院・治療を担う二次医療圏、高度・特殊な医療を担う三次医療圏に大別されます。

二次医療圏とは、複数の市町村を単位とした一般的な入院治療を担う範囲のことです。二次医療圏ごとに基準ベッド数が決められます。



福井・坂井二次医療圏域に
多くの患者が流出している

奥越二次医療圏が なくなるとどうなる？

- 二次医療圏ごとにベッド数が決められているため、他の医療圏に合併された場合、奥越地区のベッド数が削減される可能性があります。
 - 二次医療圏がなくなると、福井勝山総合病院の中核病院としての機能が維持できなくなる可能性があります。
 - 奥越地域の地域医療を担う医師の減少につながる可能性があります。医師が減少すると救急や災害時の医療が確保できなくなります。
 - 高齢化が進み交通の確保が難しい勝山で、市内で医療が確保できないことは、市民の生活に大きな影響を及ぼします。人口減少が更に深刻になることが予測されます。
- 奥越の医療圏の維持は、地域の医療を守ることにつながります。

奥越二次医療圏の 現状は？

奥越二次医療圏域の
患者流出

5年前と比較して流出率は減っていますが、20%をはるかに超えています。

奥越二次医療圏の患者流入・流出率

	流入率	流出率
平成23年11月	1.9%	46.0%
平成28年11月	2.8%	38.0%

(福井県患者調査)



医療従事者の数

医師数や看護師の数を医療圏域で比較すると、奥越二次医療圏域は少ない状況です。医師や看護師などの人材の確保が大きな課題となっています。

県内の医療従事者数

二次医療圏	医師		看護師	
	人数	10万人当り	人数	10万人当り
福井・坂井	1,371人	339.1人	7,172人	1773.8人
奥越	65人	113.7人	646人	1123.8人
丹南	229人	122.6人	1,996人	1069.0人
嶺南	231人	164.2人	1,961人	1393.8人
合計	1,896人	240.0人	11,775人	1490.5人

(平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査および平成26年業務従事者届)

みんなで守ろう！ 身近な医療

市では奥越二次医療圏を守るため、次のことを推進しています。

- 元気なうちから、市内にかりつけ医をもちましょう
- 特定健診、がん検診、予防接種を市内医療機関で受けましょう
- 医療・介護の人材確保のために新卒者および転入者を

対象に医療または介護の現場で働く方に対して奨励金を交付します(詳しくは左記までお問い合わせください)

私たち一人一人の行動が、地域の医療を守ります。私たちの手で未来に医療をつなげましょう。

健康長寿課(すこやか内)
☎ 87・0888

勝山市は「すこやか12か条」を推進しています

第1条 かかりつけ医をもとう



日頃から、子どもから大人まで日常的な診療や健康管理をしてくれる、顔なじみのかかりつけ医を持つことが大切です。健診結果など気軽に相談しましょう。

奥越二次医療圏を めぐるこれまでの経緯

5年前の第6次福井県医療計画策定の際も、奥越と丹南圏域が見直し対象となりましたが、気象条件や交通網整備など地域の実情を考慮し、従来どおり維持された経緯があります。

当時の二次医療圏の維持に関する取り組みは次のとおりです。

- 地域医療推進シンポジウム開催
- 勝山市・市議会、大野・勝山広域組合が県等に要望
- 勝山市区長連合会が「奥越二次医療圏の存続を求める意見書」の署名活動を実施し、県議会に陳情書を提出
- 第6次福井県医療計画に奥越医療圏が明記される。流出率の改善が課題とされた